

森 昶 たより

発行／森ひさし後援会事務所
志摩市浜島町浜島3206番地
TEL/FAX 0599-53-0510
メール h-mori@shima.mctv.ne.jp
URL <http://www.f-mirai.net/mori/>



東日本大震災が起こってから、5か月が過ぎました。

震災の復旧復興には、巨大地震とそれに伴う未曾有の大津波災害、更には原発事故による放射能災害が加わり、多様な未知の課題をクリアしてゆかねばならないようであります。しかしながら、テレビ・新聞などのマスコミ情報を通じて明らかのように、中央政府の対応・決断のまずさも有って、震災の復旧復興になかなか加速が加わらない状況であります。

発災直後の状況や、たった3～5ヶ月程度の経過を見て地域の防災に反映できるとは思いませんが、今回の東日本大震災は他人事ではございません。

伊勢志摩地方では87%の確率で30年以内の将来に東海地震が発生し、恐らく東南海、南海地震が連動するであろうと言われており、同時発生すれば東日本大震災のマグニチュード9.0級の規模が想定されるようです。

リアス式海岸線の志摩市は、プレートと南海トラフの関係で震源地が近いと言われており、地震発生後の津波到着時間も10～15分と東日本大震災より早く、東北地方以上の被害状況になるのではと危惧されています。

こうした思いから、平成23年第2回定例会(会期5月31日～6月27日)の一般質問で次のような質問をおこないました。

「東日本大震災で得た教訓を活かそう！！」

【質問】東日本大震災での津波被害実態から、自然の力に対して建築技術等々は全く無力であり、ともかく逃げるしか手だてがないということを知りました。

今まで以上に「防災意識と、まず逃げることを徹底して市民の皆さんに啓発し、今回の大震災で得た教訓・学んだことをしっかりと取り入れた計画の見直しを行うべきであります。市長の見解を問います。

(市長)本年3月改定の志摩市地域防災計画は、平成17年発行の三重県地域防災計画被害想定調査報告書に基づき策定されております。東日本大震災を受けて、国の中央防災会議は、東海・東南海・南海地震が三連動で発生した場合の被害想定調査を平成23年～24年度にかけて実施し、三重県はこの結果を基本にして24年度に新たな被害想定調査の実施を予定しております。志摩市はこれら国県の調査結果に基づき、地震津波避難に対して重厚な政策、記述を盛り込みながら、志摩市地域防災計画の見直しを行っていきたくて考えております。

【質問】「命を守る」ための災害発生時における「被害の低減」手段である、ハザードマップの見直しは？・逃げる高台の確保は大丈夫か？・防災意識向上啓発のためにも地区自治会とのワークショップが大切であります。見解を問います。

(市長)ハザードマップには、津波浸水予想区域、市指定の避難所、自治会指定の一次避難所等が掲載されております。県の調査結果が出た時点でハザードマップの見直しについて検討し、早急に対応していきたくて。逃げる高台については、市指定の避難所、自治会指定の一時避難場所等の表示をハザードマップで行い、場所・経路ルートの周知を図っています。

(総務部長)現マップ作成時は、各自治会と協議をして一時避難場所の確認をしています。今後、新規作成のときには、更に、自治会などとのワークショップ等の実施を行い、地域の意見を十分に反映したハザードマップにしていきたいと思っております。

マップの全世帯配布、市のホームページでの閲覧も可能であり、ご理解いただいていると判断していますが、今回は、避難所、一時避難場所並びに避難経路の海拔高の調査を再度実施いたします。調査結果の情報を各自治会に提供して、

避難所、一時避難場所並びに避難経路の更なる検証をしていきたいと思っております。



台風では万全の大矢浜海浜公園：10mの津波には心配？



海拔3.3mの迫子公民館：避難所としては不適切

【質問】保育所・幼稚園・小中学校の防災計画・避難教育指導並びに要援護者の優先避難の体制の実態と、要避難施設か否かの検証仕分け確認は出来ているのか問います。

(教育部長)幼稚園・小中学校とも年度当初に作成された防災計画に沿って防災教育、避難訓練を実施しております。学校施設の要避難か否かの仕分けは、地震規模想定が予測不可能であり判断は適切でないと考えます。今回の震災をうけて素早く子供の身を守り、高台に避難させることを教訓にとり、更に質を高めるように取組んでまいります。

(健康福祉部長)保育所の避難指導は消防計画の訓練マニュアルに基づき毎月実施しております。今回の大震災の教訓から、避難場所・避難経路の見直し検討を行っております。又、要援護者の優先避難の体制については、大震災の経験を生かし指定管理者の社会福祉協議会に、見直し作業の指示を行いました。



海拔4mのさくら苑：福祉避難所としては不適切

【質問】浜島支所は、浜島町民の象徴的な建物であり避難タワーとしても役立てるべし、一方、将来のことを考えれば高台のほうへ支所機能を移すべきと賛否両論です。

支所の耐震化補強計画のその後の経過について問います。(総務部長)跡地の利活用検討プロジェクトチーム会議で検討を重ねていますが、今年度事業として支所の躯体コンクリートの劣化診断調査を行い、結果を踏まえた上で利活用の最終判断をしていきたいと思っております。